鉄骨工作標準図（2） 2019年度版

§ 6 柱梁接合部及び継手

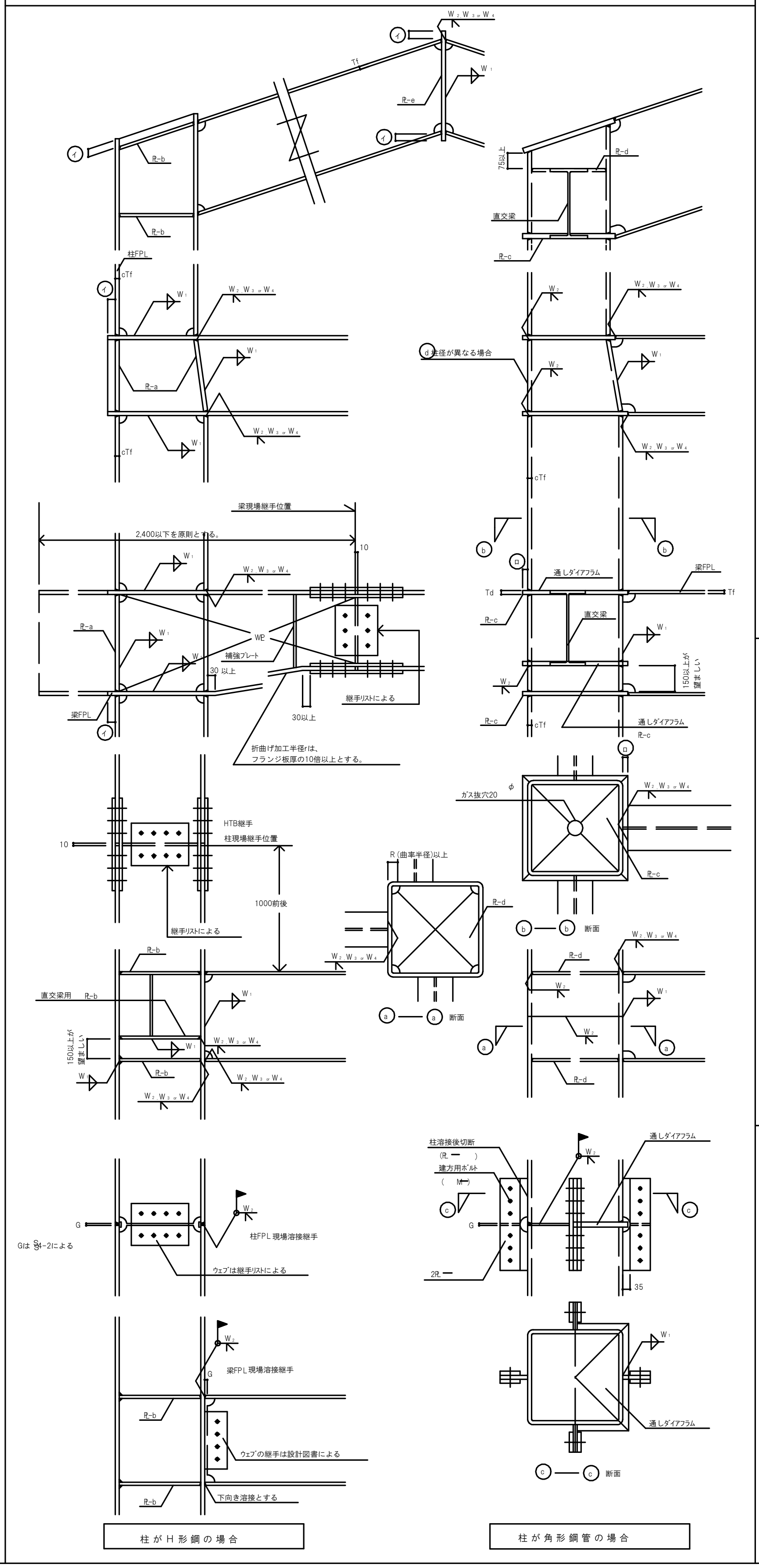
6－1 勾配屋根

6－2 梁通し

6－3 仕口と継手

6－4 柱通し

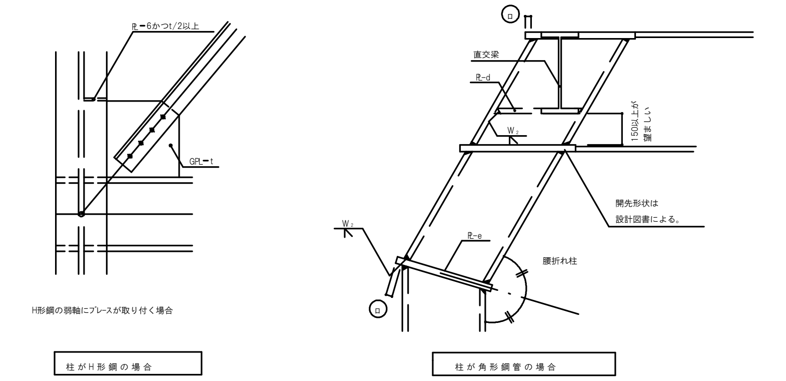
6－5 現場溶接継手



W₂ W₃ ₀ W₄
W₁
PL－e
PL－b
PL－d
直交梁
PL－c
75以上
柱FPL
cTf
W₂ W₃ ₀ W₄
PL－a
d 柱径が異なる場合
梁現場継手位置
2,400以下を原則とする。
10
W₁
W₂ W₃ ₀ W₄
補強プレート
30 以上
継手リストによる
梁FPL
30以上
折曲げ加工半径Rは，フランジ板厚の10倍以上とする。
通しダイアフラム
直交梁
150以上かつ溶接しろ
HTB継手
柱現場継手位置
1000前後
継手リストによる
ガス抜穴20
R（曲率半径）以上
断面
直交梁用 PL－b
柱溶接後切断
（PL－）
建方用ボルト
G
Gは 6－2による
柱FPL現場溶接継手
ウェブは継手リストによる
2PL－
35
梁FPL現場溶接継手
ウェブの継手は設計図書による
下向き溶接とする

柱がH形鋼の場合　　柱が角形鋼管の場合

6－6 その他



PL－6かつ1/2以上
GPL－t
直交梁
PL－d
W₁
150以上かつ溶接しろ
開先形状は設計図書による。
W₁
PL－e
腰折れ柱

H形鋼の弱軸にブレースが取り付く場合

柱がH形鋼の場合　　柱が角形鋼管の場合

1）パネルゾーンのP の厚さ

1. PL－a（鉛直スチフナ）　上下柱のFP の厚い方より1サイズUP以上
2. PL－b（水平スチフナ）　仕口部に集結する梁の最大FP より1サイズUP以上
3. PL－c（通しダイアフラム）　仕口部に集結する梁の最大FP より2サイズUP以上かつ柱のFP 以上　　L
4. PL－d（内ダイアフラム）　仕口部に集結する梁の最大FP より2サイズUP以上
5. PL－e（折れ曲がり部）　梁(柱)のFP より1サイズUP以上

2）出寸法

（イ） 25mmかつcTf以上

（ロ） Td ≦25 の場合　25

Td ≧28 の場合　30

3）注記

1，ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。　、

2，ⓓ(6－2項)上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。

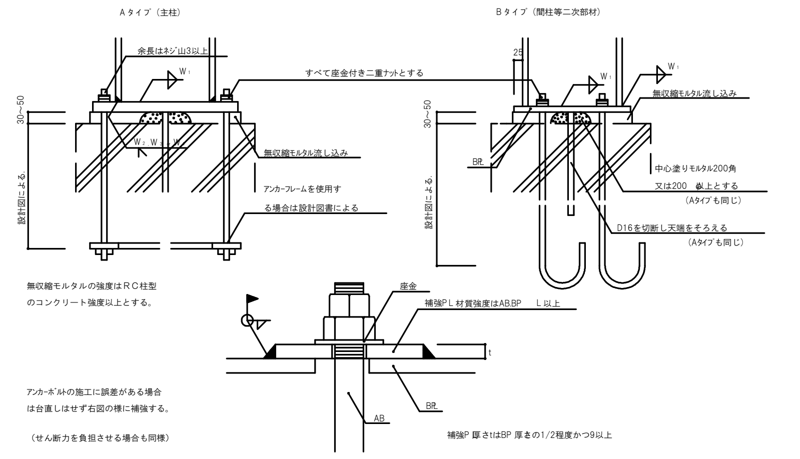
3，ハンチ部でFP を折り曲げる場合はR ≧10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。

4，ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)

5，現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得,養生に十分配慮して行なうこと。

7－1 一般柱脚

§ 7 柱脚



Aタイプ（主柱）
Bタイプ（間柱等二次部材）
余長はネジ山3以上
すべて座金付き二重ナットとする
W₁
30～50
設計図による.
W₂ W₃ ₀ W₄
無収縮モルタル流し込み
アンカーフレームを使用する場合は設計図書による
25
無収縮モルタル流し込み
BPL
中心塗りモルタル200角又は200 φ以上とする（Aタイプも同じ）
D16を切断し天端をそろえる（Aタイプも同じ）
座金
補強PＬ材質強度はAB.BP　Ｌ以上
t
BPL
AB
補強P 厚さtはBP 厚さの1/2程度かつ9以上

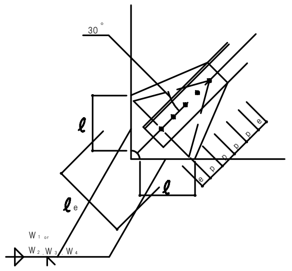
無収縮モルタルの強度はＲＣ柱型のコンクリート強度以上とする。

アンカーボルトの施工に誤差がある場合は台直しはせず右図の様に補強する。

（せん断力を負担させる場合も同様）

8－1 ブレースリスト

§ 8 壁面ブレース



30°
ℓ
ℓe
ℓ
e
p
p
W₁ or
W₂ , W₃ , W₄

符号	部　　材	高力ボルト		G PL		溶　接	
		径	本数	t	ℓe	脚長	Σℓ

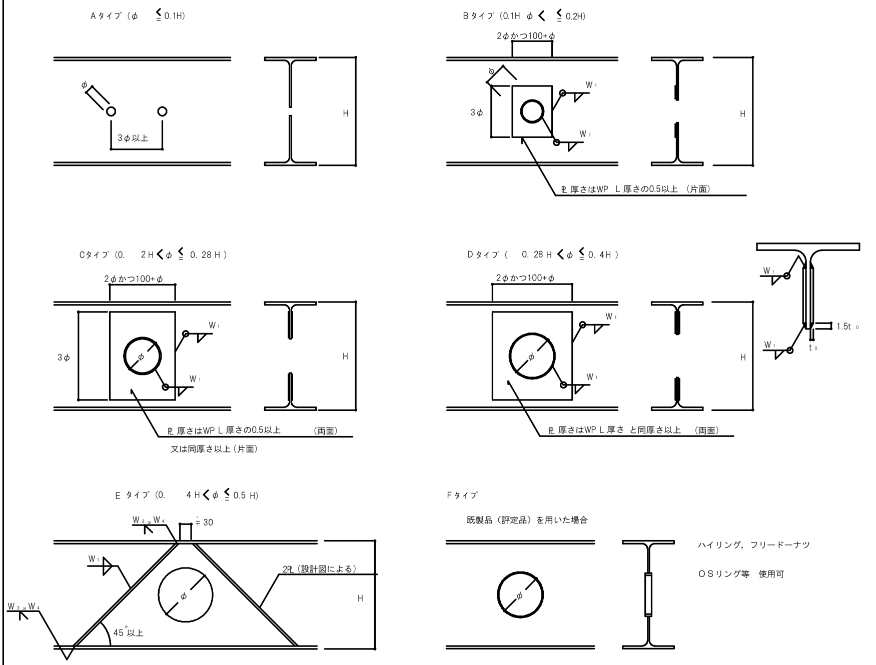
1，GP Lの最小幅 ℓが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。

2，丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。

3，床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§ 9 その他

9－1 貫通補強



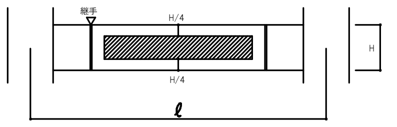
Aタイプ（φ ≦0.1H）
φ
3φ以上
H
Bタイプ（0.1H φ＜ ≦0.2H）
2φかつ100+φ
3φ
W₁
PL厚さはWP L厚さの0.5以上（片面）
Cタイプ（0. 2H＜φ≦ 0. 28H）
PL厚さはWP L厚さの0.5以上（両面）
又は同厚さ以上（片面）
Dタイプ（ 0. 28H＜φ≦0. 4H）
PL厚さはWP L厚さ と同厚さ以上（両面）
1.5t₀
t₀
E タイプ（0. 4H＜φ≦0.5 H）
W₃ or W₄
≒30
2PL（設計図による）
45°以上
Fタイプ
既製品（評定品）を用いた場合
ハイリング，フリードーナツ
ＯＳリング等　使用可

1，特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径(φ)は0.5H以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。

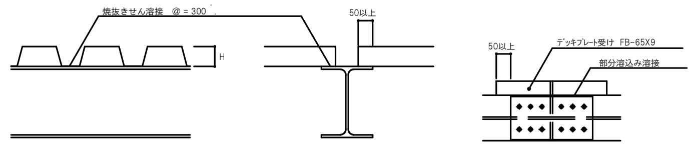
（これを満足できない場合は設計者の指示による。）

2，貫通孔を設ける範囲は右図の ▨ 部分を原則とする。

3，貫通孔が多くある場合はWP を厚くした(WP +補強P)BHとする。　L



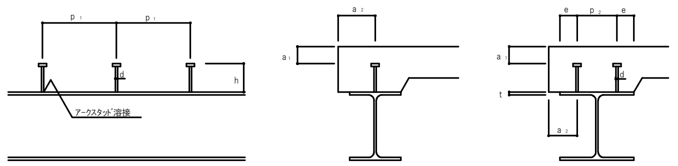
9－2 デッキプレート



焼抜きせん溶接　@＝300
H
50以上
50以上
デッキプレート受け FB－65X9
部分溶込み溶接

◦ 合成スラブの場合はメーカー仕様による.

9－3 スタッドジベル

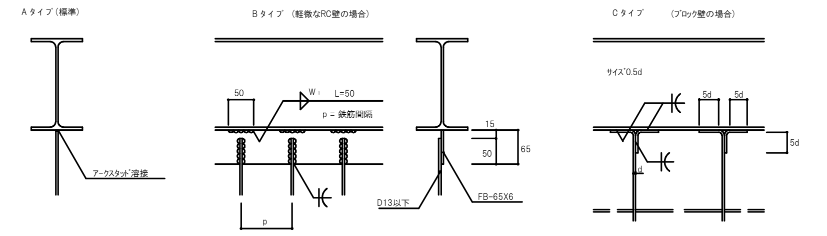


p₁
p₁
d
h
アークスタッド溶接
a₂
a₁
e
p₂
e
a₁
t
d
a₂

h ≧ 4.0d
7.5d ≦ p₁ ≦ 300
p₂ ≧ 5.0d
a₁ ≧ 40
a₂ ≧ 100
e ≧ 40
d ≦ 2.5t

h， p₁，p₂ 設計図書による.

9－4 壁筋の溶接



Aタイプ（標準）
アークスタッド溶接
Bタイプ （軽微なRC壁の場合）
50
W₁ L=50
p ＝ 鉄筋間隔
p
15
50
65
D13以下
FB－65X6
Cタイプ （ブロック壁の場合）
サイズ0.5d
5d
5d
5d
d

工事名称	豊津小学校屋外トイレ新設工事		図面番号		日付	照査	部長	担当	製図
			S／05	意・(構)・電・設					
図名	鉄骨工作標準図（2）	縮尺 －							

No.12